

目次

口 絵
 発刊のことば
 発刊に寄せて
 凡 例

双海町誌編さん委員長 若松進 一
 双海町長 上田 稔

第一編 双海町の概要	1
第一章 立地と人口	3
第一節 町の位置と面積	3
第二節 地 勢	3
第三節 人 口	4
第四節 気 質	9
第二章 気 象	10
第一節 概 要	10
第二節 異常気象と災害	15
第三章 地 質	30
第一節 日本の地質概要	30
第二節 伊予郡市の地質概要	33

第三節 双海町の地質概要	36
第四章 生 物	48
第一節 植 物	48
第二節 動 物	49
第二編 沿 革	53
第一章 原始・古代	55
第一節 旧石器時代	55
第二節 縄文時代	57
第三節 弥生時代	58
第四節 古墳文化と古代国家	59
第五節 古 代	60
第二章 中 世	67
第一節 鎌倉・南北朝時代	67
第二節 室町・戦国時代	71
第三節 郷土の諸城	75
第三章 近 世	83
第一節 概 要	83
第二節 関ヶ原の合戦	84
第三節 伊予八藩	85
第四節 大洲藩の成立	85

第五節 幕府の大名対策 86

第六節 検地と石高 87

第七節 領民の生活 89

第八節 郷土の様子 90

第九節 幕府巡見使と大名 93

第一〇節 藩行政と郷土 93

第一一節 藩米高と納入方法 94

第一二節 郷土の自治組織 94

第一三節 藩札 95

第一四節 厳しい生活制限 96

第一五節 幕末の動向 97

第四章 近代 99

第一節 概要 99

第二節 明治時代 101

第三節 大正・昭和前期 111

第四節 兵事 119

第五節 議決機関 134

第六節 執行機関 137

第五章 大戦後の郷土 142

第一節 戦後十年の歩み 142

第二節 上灘町と下灘村の合併 148

第六章 双海町五十年 159

第一節 主なできごと 159

第二節 選挙 167

第三節 議決機関 172

第四節 執行機関 175

第五節 町の財政 183

第六節 大字と集落 198

第七節 双海のまちづくり 201

第八節 平成の大合併 205

第三編 産業・経済 217

第一章 産業人口 219

第一節 安土桃山時代前 219

第二節 藩政時代 219

第三節 近代 220

第四節 現代 221

第二章 農政 223

第一節 概要 223

第二節 終戦前後の農政 225

第三節 新しい農政 231

第三章 農業

第一節 概要 235

第二節 農業技術の発達と機械化 238

第三節 生産基盤の整備 242

第四節 農業振興対策 243

第五節 農業協同組合、農業共済組合 247

第六節 養蚕 251

第七節 畜産 253

第八節 普通作物 256

第九節 果樹園芸 259

第一〇節 特用作物 270

第四章 林業

第一節 概要 272

第二節 林業振興対策 277

第三節 建築材 285

第四節 薪炭 286

第五節 シイタケの生産 288

第六節 森林組合 289

第五章 漁業 291

第一節 漁場の開拓 291

第二節 明治期の漁業 294

第一節 概要 272

第二節 豊かな観光資源の開発 364

第三節 観光振興対策 370

第四節 施設の整備 373

第五節 まつり・イベント 380

第六節 物産 391

第七節 双海町観光協会 394

第四編 教育・文化 397

第三章 大正・昭和期の漁業

第一節 現代の漁業 310

第二節 漁港の整備 321

第三節 漁業振興対策 329

第四節 漁業協同組合 331

第六章 商工業

第一節 概要 343

第二節 工業 344

第三節 商業 351

第四節 商工業振興対策 354

第五節 商工会 356

第六節 経営の近代化 358

第七節 金融機関 363

第七章 観光

第一節 豊かな観光資源の開発 364

第二節 観光振興対策 370

第三節 施設の整備 373

第四節 まつり・イベント 380

第五節 物産 391

第六節 双海町観光協会 394

目次

第一章 教育

399

第一節 沿革・概要

第一節 概 要

541

第二節 教育行政

第二節 生産 暦

543

第三節 江戸時代の教育

第三節 仕事と道具

545

第四節 小学校教育

第四節 衣服と仕事着

550

第五節 中学校教育

第五節 織物と染料

553

第六節 P T A

第六節 食 事

554

第七節 学校給食

第七節 赤飯・餅・だんご

557

第八節 幼児教育

第八節 家の建て方

560

第九節 青年教育

第九節 社会生活

564

第一〇節 高等女学院

第一〇節 物資の運搬・交易

566

第一一節 社会教育

第一一節 一生の儀礼

570

第一二節 公民館

第一二節 別火・墓制

576

第一三節 社会体育・レクリエーション

第一三節 年中行事

577

第一四節 人権教育

第一四節 信仰の旅と道祖神

589

第二章 文 化

第二章 宗 教

634

第一節 文化・芸術活動

第一節 神道(神社・教会)

634

第二節 文化行事

第二節 仏教(寺院)

634

第三節 文化団体・グループ

第一七節 方言・言語芸術

600

第四節 文化遺産

第一八節 昔話と伝説

623

第五編 民俗・宗教

第六節 郷土芸能・娯楽

596

第一章 福 祉

第一章 基盤整備と環境保全

748

第一節 社会福祉法の目的

第一節 土地利用計画

748

第二節 福祉六法に基づく福祉施策

第二節 市街地の整備

750

第三節 地域福祉

第三節 住宅の整備

750

第四節 保育所・年金等

第四節 河川の整備

752

第二章 保健・衛生・医療

第五節 公園・緑地の整備

756

第一節 保健・衛生

第六節 自然環境の保全

761

第二節 医 療

第八編 人物小伝

763

第七編 生活環境

年 表

781

第一章 交通運輸と通信報道

参考文献一覧表

781

第一節 概 要

編集後記

781

第二節 近世の交通

あとがき

781

第三節 近・現代の交通

705

第四節 通信報道

722

第二章 治安と消防

730

第一節 治 安

730

第二節 消 防

737

730

703

701

699

696

688

688

683

670

659

659

657

539

505

504

502

501

目

次

目

次